



連携自治体紹介シート

自治体名	奈良県下北山村 奈良県吉野郡下北山村 ■人口：806人 519戸 （2023年3月31日現在） ■面積：133.39km ² （※東京都港区 20.37km ² 人口26万人）
自治体の概要	■村の92%が森林 ■奈良県の最南東端 ■奈良市より約110km 車で約3時間 ■最寄り駅（三重県熊野市駅）より18km 車で40分
アクセス方法	東京～名古屋駅（約1.5時間 新幹線 10,560円） ➡名古屋駅～熊野市駅（約3時間 特急料金 6,450円） ➡熊野市駅～下北山村（約40分 タクシー/レンタカー）
主な特色 PRポイント	下北山村は、奈良県の東南端にある人口約800人の山間地域で、交通アクセスは県庁所在地の奈良市より車で約3時間、県内最寄り主要駅（近鉄大和八木駅）より車で約2時間、三重県・JR熊野市駅より車で約40分かかり、アクセスがいいとは言えない過疎地域です。 村の人口は令和4年3月現在で809人、高齢化率は48.6%、年少人口率は7.0%となっており、超少子高齢化に直面しています。人口推計では2040年には現在の半分の人口の400人台になると推定されており、村の存続自体が危ぶまれる状況であり、若年者層を増やすための取り組みが急務です。 村の面積の92%が山林で、約半分が「吉野熊野国立公園」に指定されており、世界遺産「大峯奥駈道」が村の西側を通っています。世界遺産の構成資産に、鬼が住むといわれる集落「前鬼」が選ばれています。 村内最大の集客施設である下北山スポーツ公園では、キャンプ場、合宿施設、グラウンドなどがあり、キャンプ場からは高さ110mの日本最大級のアーチを描く池原ダムの堰堤を見ることができます。 観光面では、かつて盛んだったサッカー合宿が少子化で年々減少しており、さらにコロナの影響で合宿が激減しています。夏のキャンプ場のみを集客を、通年型、村内周遊型の観光に転換し、村内でお金が落ちる仕組みを作る必要があります。



連携自治体紹介シート

	<p>主な観光資源</p> <p>■下北山スポーツ公園</p> <p>旧河川敷を利用して整備されたスポーツ公園。 総面積19万平方メートル。 昭和57年に整備。 宿舎、多目的グラウンド、テニスコート、キャンプ場、温泉施設などがある。 年間約12万人が訪れる 毎年、サッカー合宿では全国各地からジュニアチームが集まる キャンプ場は、日本最大のキャンプ場予約サイト「なっぷ」で、西日本部門予約件数No.1を獲得。</p>  <p>■池原ダム湖、七色ダム湖</p> <p>村内には、池原ダム湖、七色ダム湖の2つのダム湖がある ブラックバスフィッシングの聖地であり、 全国からアングラーが訪れる</p>  <p>■世界遺産前鬼の里</p> <p>世界遺産「大峯奥駈道（おおみねおくがけみち）」が村の西部を縦走しており、修験者のための宿坊がある前鬼の里では、1300年の歴史がある宿坊「小仲坊」において、第61代当主の五鬼助義之さんが、修験者のお世話を現在も行っていきます。</p>
<p>主な地域課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集客の一極化 キャンプやバス釣りが有名であるため、夏に来訪者が集中するため、季節を問わない、単価の高い観光コンテンツ作りを行い、夏の集客以外のシーズンに来訪者を分散化させる必要があります。 ・来訪者（宿泊者）の消費額の低さ 宿泊の平均単価が1万円を切っており、温泉（平均約1,150円）やキャンプ地利用（平均約2,500円）と当村での消費金額の低さが顕著となっているため、消費額を上げるコンテンツの整備が急務です。 ・地域経済の縮小 産業の衰退、旅行者のシーズン集中などの悪循環により、地域の観光産業はデフレ状態です。各産業が連携し、観光商材の高付加価値化を行い、地域経済の拡大・雇用創出に繋げる取り組みが必要です。 ・止まらない人口減少 現在村の人口は800人程度で、高齢化、人口減少が止まらず、2065年には170人まで減少する予測が出ています。 下北山村では移住者を増やすための取り組みを実施していますが、大幅な人口増には繋がっておらず、観光産業を通じた取組みなど、これまでとは違った角度からの移住促進の取り組みが急務です。